

## 7月6日 メッセージ

聖書：コリントの信徒への手紙二 8：1 - 15

### 「豊かな者となりなさい」

ちょうど10年前、「防衛装備移転三原則」が話題になっていました。それまではごく一部の例外を除き武器輸出はしないとするのが政府の統一見解でした。製造業を中心とする経済団体連合会は当時、防衛装備移転（＝武器輸出）に前のめりだったことを記憶しています。

景気はずっと上向かず、デフレが続いていました。国内市場も国際市場も飽和状態。そのような中にあって、絶えず更新が必要な装備は産業として魅力的だったのでしょう。そしてその流れは今も変わっていません。富は貯めて増やすものだからと、少しでも貯蓄を殖やしたいと躍起になっています。

一方、種々のサービスを必要とする人は10年前よりもっと増えています。製造業によって作られた製品は需要と供給のバランスを鑑みて移転することができます。しかし残念ながら、サービスは原則として移転できません。例えば介護サービスは、土地を離れるわけにはいきません。ローカルでしかあり得ないです。

そういう人々を対象とする「サービス業」がこれから日本の予算配分にとって大きな関心事になってくるはずなのに、日本経済を支配している人たちにはそれが理解してもらえません。生活保護費の引き下げ（ようやく改善される見通しにはなったが）をしたり、増えた税収を防衛費の増額に使ったりしています。だから、本来ならば政治が取り組むべき課題を「子ども食堂」や「フードバンク」が担わざるを得なくなっています。ごく一部の人たちの貯蓄は、その他大勢の犠牲の上に成り立っているのです（「神を知らぬ者は心に言う／『神などない』と。人々は腐敗している。忌むべき行いをする。善を行う者はいない。」詩編14:1）。

そもそも、「豊かさ」とは何でしょう。気兼ねなくものを買うことができる、おかげが一品多い、明日の心配をしなくて良い……etc.。確かにこれらは「豊か」だと言えるでしょう。ただ、いずれも「貯蓄」という概念から自由ではないような気がします。

聖書が伝える「豊かさ」は少し違います。収穫が多いことは確かに豊かだと感じていますが、それはその人個人に帰属するものではないと考えています。それゆえ、収穫物の初物は全て神に献げて、神が造られた全ての者、特に自分の手で収穫が得られない者たちと分け合うのです（『わたしは、主が与えられた地の実りの初物を、今、ここに持って参りました。』……主の前にそれを供え、……主があなたとあなたの家族に与えられたすべての賜物を、レビ人およびあなたの中に住んでいる寄留者と共に喜び祝いなさい。』申命記26:10-11）。

自分たちに注がれている神の恵みの豊かさにまず感謝するのです。

なぜなら、神の恵みは貯蓄できないからです（「そこで、彼らは朝ごとにそれぞれ必要な分を集めた。日が高くなると、それは溶けてしまった。」出エジプト記 16:21）。注がれる恵みの量は自分ではコントロールできないからです。だから、自分一人だけが潤うのを喜ぶのではなく、イスラエル全体が、ひいては神が造られたこの世界全体が潤うことを「豊かさ」と実感しています。

「あなたがたは信仰、言葉、知識、あらゆる熱心、わたしたちから受ける愛など、すべての点で豊かなのですから、この慈善の業においても豊かな者となりなさい。」（コリントの信徒への手紙二 8:7）

だから、パウロはコリントの人々に「あなたたちもその流れに続くように」と諭すのです。あなたたちには多くの恵みが注がれている。そのあなた一人では受け止めきれない神の愛を、あなたから溢れ出るその愛を広く隣人と分かち合うようにと願っています。その意味で、「すべての点で満ち溢れているのですから、この恵みの業にも満ち溢れる者となってください。」（コリントの信徒への手紙二 8:7、聖書協会共同訳）と訳す方がより相応しいようにも思います。

愛に溢れる者は当然、他者を踏みにじったり、仲違いしたりしたままではあり得ません（「……兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、……まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」マタイによる福音書 5:23-24）。神が造られ、「見よ、それは極めて良かった」（創世記 1:31）世界をそのまま維持するために、今日もローカルで愛を分からち合います。その繰り返しが私たちをますます「豊かな群れ」へと作り変えていくのです。

